

東京2020大会の健康面でのレガシー

～オリンピックイヤーを
迎えるにあたって～

東京都医師会
会長 尾崎治夫

東京2020大会のレガシー

レガシー(Legacy)：遺産、先人の遺物

オリンピック・レガシー：

オリンピックが社会において貢献しうる根本的価値

東京都医師会では以前より健康面でのレガシーに注目

東京2020大会の健康面でのレガシー：予防医療

予防医療 ➡ 健康寿命の延伸 ➡ 社会保障費の抑制

人生100年時代を迎え、予防医療の役割が増加

東京2020大会の健康面でのレガシー

＜喫緊の課題＞

1. タバコ対策
2. 熱中症対策
3. 外国人医療対策

4. 感染症対策

5. 障害のある人と共存する
社会全体のバリアフリー化

＜将来を見据えた課題＞

「運動で健康になる」

という意識改革

“Exercise is medicine”

「適度な運動こそは健康寿命
を伸ばす医療そのものである」

大会に向けての効果

“Festival Effects”

「フェスティバル効果」

”Unity in Diversity“

「多様性に対する協調」

「多様な国民の気持ちを
ひとつにする」

➡健康を考える機運の醸成

➡2020東京大会の
健康面でのレガシー：
予防医療

➡“Healthy City Tokyo”

1. タバコ対策

- 東京都では2020年4月に受動喫煙防止条例を全面施行
- 従業員を雇用する飲食店などは喫煙室を設けない限り、原則屋内禁煙
- 中小企業や個人営業の店の喫煙室設置には都の補助金や国の助成金がある
- 費用がかかることなどから設置を決めた例は少ない
- 禁煙店が一気に拡大することが予想される

2. 熱中症対策

*** 東京2020大会に向けた東京都暑さ対策推進会議**

- ① 新設競技会場等の暑さ対策：風、ミスト、観客用休憩室
- ② マラソン沿道等の暑さ対策：温度上昇抑制舗装、道路緑化
- ③ 熱中症に係る広報：ホームページ多言語化、チラシ
- ④ 外国人患者への医療提供・医療情報提供体制の整備
- ⑤ 東京都環境局の暑さ対策推進事業：打ち水、微細ミストなど

*** 東京都医師会、日本医師会**

マラソンのスタート時間の早朝への変更を要望

3. 外国人医療対策

①医療機関への支援

- 外国人患者受け入れ体制の充実に係る第三者認証取得補助
- 外国人患者受け入れ体制整備補助
- 医療機関における外国人患者対応支援研修
- 医療機関向け救急通訳サービス
- 東京都医師会電話医療通訳の利用促進事業
(メディフォンとの団体契約)

②医療情報の提供

- 外国語による医療情報サービスの提供
- 東京都医療機関案内サービス「ひまわり」による医療機関検索

4. 感染症対策

- 東京2020大会に現在の時点で約4,000万人の訪日外国人旅行者数が予想されている。
- 1日当たりの予想来場者数は92万人と言われている。
- WHOは「一定期間、限定された地域において、同一目的で集合した多人数の集団」を「マスギャザリング」と定義している。
- 東京2020大会はまさに「マスギャザリング」ということができる。

感染症まん延の条件

① 過密：生活・衛生環境の悪化

② 移動：病原体の持ち込み

オリンピック・パラリンピック開催時期においては、この2つの条件が満たされ、感染症のまん延が予想される。

東京オリンピック・パラリンピックにおける感染症リスク

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けての 感染症リスク評価

		輸入例の増加	感染伝播の懸念	大規模事例の懸念	特記事項
ワクチン 予防可能 疾患 (VPD)	麻しん	○	○	○	接触者調査の負荷等
	風しん	○	○		
	侵襲性髄膜炎菌感染症		○	○	大会関係者における事例発生時の負荷等
	インフルエンザ	○	○		
	百日咳	○	○		
新興・再 興感染症	中東呼吸器症候群	○	○	○	接触者調査、リスクコミュニケーション等の負荷
	蚊媒介感染症（デング、チクングニア、ジカ）	○			蚊媒介対策の負荷等
食品媒介 感染症	腸管出血性大腸菌感染症		○	○	
	細菌性赤痢	○	○		
	A型肝炎	○	○		
	E型肝炎	○	○		
	感染性胃腸炎（ノロウイルス感染症を含む）	○	○		
その他	結核	○	○		
	梅毒	○	○		
	HIV/AIDS	○	○		

マスギャザリングの環境下で 注意が必要な疾患

① 麻しん：

空気感染をするため、きわめて感染力が強い。

② 風しん：

妊娠中に感染すると胎児に影響を及ぼす。

③ 侵襲性髄膜炎菌感染症：

病状の進行が早く、重症化する。

危機的事態

危機的事態：

感染症の発生、拡大により都民等の健康に影響を及ぼし、大会運営に支障が生じる可能性があり、以下の対応を検討する必要がある状況。

- ① 競技の中止、順延等
- ② 選手・関係者並びに観客、地域住民等の安全確保を図る対策
- ③ 被害拡大防止のため広域的・組織横断的な対応

VPD

VPD (Vaccine Preventable Disease)

ワクチンで防ぐことのできる疾患

麻疹

風疹

侵袭性髄膜炎菌感染症

ワクチンで防ぐことのできる疾患「VPD」は
ワクチンで防ぐのが感染防御の原則

東京都医師会の活動

日本医師会代議員会代表質問

(平成31年3月)

麻しんの発生予防・蔓延防止には全国レベルでの対策が必要であり、とくに交通手段の発達した現代においては全国レベルでの麻しん対策は喫緊の課題と考え、日本医師会の今後の対策を質問する。

マスギャザリングの環境下で課題となる侵襲性髄膜炎菌感染症に関する対策についても質問する。

全国各地の自治体が選手団や関係者を受け入れるホストタウンとなっており、全国規模で感染症対策を講じる必要がある。

東京都医師会の活動

小池東京都知事へ要望書提出

「東京オリンピック・パラリンピック大会関係者における麻疹の予防・まん延防止に関する要望書」

(令和元年5月)

< 対策 1 >

大会関係者、選手、都市ボランティア（約3万人）及び大会ボランティア（約8万人）に対して麻疹抗体価検査を行い、抗体陰性または抗体価低値の者にワクチン接種を行う。

< 対策 2 >

都民全体に向けて、麻疹をはじめとする各種感染症に関する啓発活動をさらに強化する。

九都県市首脳会議

九都県市首脳会議が国に対して要望

(令和元年5月23日 根本厚生労働大臣あて)

「麻しん（はしか）対策の推進について」の要望

東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県、横浜市、
川崎市、千葉市、さいたま市、相模原市

1. 感染の中心になっている年代への定期接種化
2. 海外渡航予定者に対する予防接種
3. 国が財源を確保
4. 国の主導によるワクチンの安定供給

東京内科医会、東京小児科医会合同学術講演会

オリパラ東京大会に向けての ワクチン対策緊急会議

講師：川崎医科大学小児科学教授 中野貴司

演題：国際イベントが続く日本、今後懸念
される海外からの様々の感染症について
～髄膜炎菌感染症、麻しん、風しん等

日時：2019年9月20日（金）19：30～21：00

場所：東京都医師会館2階講堂

東京内科医会、東京小児科医会、サノフィ株式会社共催
東京都医師会後援

関係省庁等連絡会議の 風しん・麻しんに関する特別対策

- 内閣官房東京オリンピック・パラリンピック
推進本部事務局
- 令和元年8月1日開催
「2020年東京オリンピック・パラリンピック競技
大会に向けた感染症対策に関する関係省庁等
連絡会議」
- 「2020年東京オリンピック・パラリンピック競
技大会に向けた感染症対策に関する推進計画」

関係省庁等連絡会議の 風しん・麻しんに関する特別対策

- 東京大会の成功に向けて、感染症対策に万全を期すため、特に多くの訪日外国人と接する機会のある者や感染した場合に大会運営等に悪影響を及ぼす可能性のある者に対し、風しん・麻しんへの感染リスクを一層低下させることを目的として、風しん・麻しんに関する特別な対策（特別対策）を講じる
- 対象
 - ①大会運営者等であって、感染することで大会運営に著しい悪影響を及ぼす可能性のある者
 - ②訪日外国人と接する機会の多い業務に従事する者

東京2020 ボランティアスケジュール

2019

2020

Jun.

Jul.

Aug.

Sep.

Oct.

Nov.

Dec.

Jan.

Feb.

Mar.

Apr.

May

Jun.

Jul.

2019.02～

面談・説明会
オリエンテーション等

2019.10～2020.02

共通研修

採用可
否判明
研修の
通知

役割/
会場確
定通知

役割
別
研修

制服
受取

会場
別
研修

本番

2019.04～

採用者向け各種研修

制服
受取

2019.01～

書類選考、面接

共通研修

採用
通知

その他
研修

制服
受取

2019.05～07

面談・説明会

共通
研修
受講者
通知

共通研修

採用
通知

役割
別
研修

会場別
研修等

大会ボランティア
80,000人
都市ボランティア
(東京)
30,000人

都市ボランティ
ア(埼玉)
5,400人

都市ボランティ
ア(千葉)
3,000人

都市ボランティ
ア(横浜市)
3,000人

東京2020大会の健康面でのレガシー

＜喫緊の課題＞

1. タバコ対策
2. 熱中症対策
3. 外国人医療対策
- 4. 感染症対策**
5. 障害のある人と共存する
社会全体のバリアフリー化

＜将来を見据えた課題＞

- 「運動で健康になる」
という意識改革
“Exercise is medicine”
「適度な運動こそは健康寿命
を伸ばす医療そのものである」

大会に向けての効果

“Festival Effects”

「フェスティバル効果」

“Unity in Diversity”

「多様性に対する協調」

「多様な国民の気持ちを
ひとつにする」

- ➡健康を考える機運の醸成
- ➡2020東京大会の
健康面でのレガシー：
予防医療
- ➡“Healthy City Tokyo”